朝日新聞
14.9.29

東北大が男女共同参画シンポ

90年前 国立大初の共学
今、再び先駆けへ

東北大は28日、仙台市青葉区の仙台国際センターで「第1回東北大学男女共同参画シンポジウム」を開き、約400人の参加者があった。女性の積極的起用を求める意見が相次ぎ、男性教授から「任免権者にはセンスを持って欲しい」と言った意見も飛び出した。これを受け、阿部博之学長は「（男女共同参画に）全国の大学の前駆となるべく率先して進める」などとする宣言を読み上げ、積極的な姿勢を示した。

男女共同参画の現状などを話したシンポジウム＝仙台国際センターで

格差是正を宣言

東北大は、1913年に当時の文部省の反対を押し切り、国立大学で初めて女子学生を受け入れた歴史がある。今年3月には、全学的な調査の結果を踏まえ、男女共同参画に関する報告書をまとめた。

この日のパネルディスカッションでは、ジェレミー・シモンズ東北大助教授が「現代の社会は男性優遇社会だとの意識を持つべきだ」と問題提起。パネリストの1人が「同じ能力なら女性を採用して欲しい」との希望が女性の間で最も多い調査結果を紹介し、辻村みよ子同大教授は「損をしているからせめて同じスタートラインに立たせて欲しいということ」だと解説した。

また、女性の比率が低い同大工学系の井口泰孝教授は「優秀な女学生が増えているのにその後の人材養成のチャンスを与えていない。産学協同など新しい職場へ積極登用するなど、任免権者にはセンスを持って欲しい」と注文を付けた。

最後に、阿部学長は「具体的な取り組みが開始されたが、なお課題が山積している」として、ジェンダー学など必要な研究・教育を推進するとともに、「男女格差の是正、労働環境の改善などに効果的な措置を講じる」とする「男女共同参画推進のための東北大学宣言」を読み上げた。

シンポジウム終了後、同大男女共同参画委員長を務める馬渡尚憲副学長は「女性が研究や仕事をしやすい環境には自由な意見が言えるような雰囲気がある。女性の能力を生かせる環境を整えることは、男女を問わず、社会全体にとってプラスになる」と話した。